

馬場ひでゆきの活動日誌

No.36

小出裕章氏講演会

必要なのは**原発の力ネ?**
それとも**穏やかな生活?**

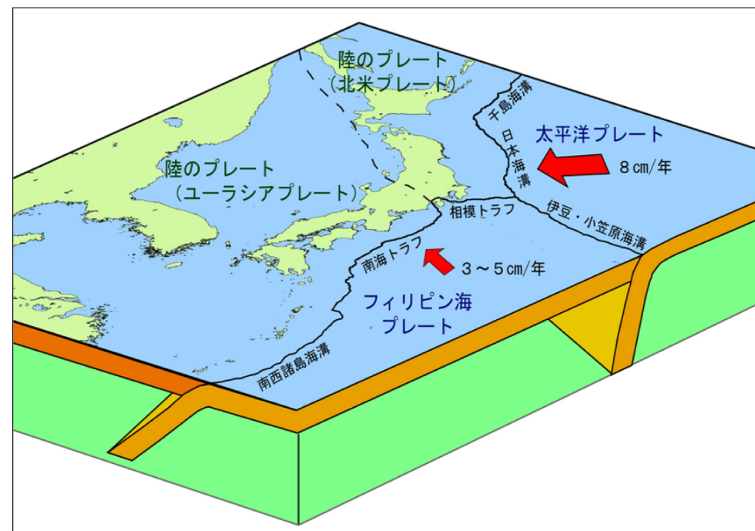
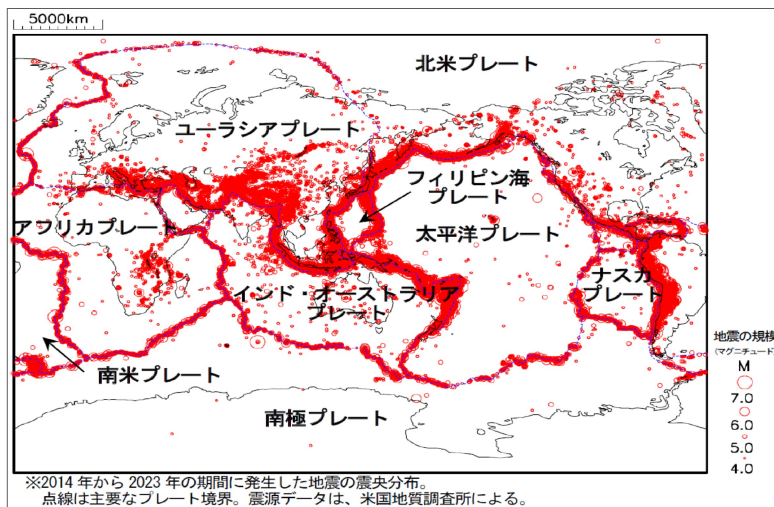
原発を動かすな!

9月7日、上越文化会館で元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章さんの講演会が開催されました。小出さんは、原子力の専門家。現在は、全国を回り、「原発はいらない!」と講演をされています。小出さんの渾身の訴えに胸が熱くなりました。その内容を要約して報告します。

原発を過疎地に押し付ける

発電所は、消費地近くに建てるのが鉄則です。送電線が不要で送電ロスもなくなるからです。しかし、日本の原発は、東京、大阪、名古屋という巨大な消費地を避けて建てました。東電、国は原発が危険なことを知っていたのです。万一、事故が起きると困るので、原発は大都会に建てず、過疎地に建てることにしたのです。

世界一の地震大国日本に原発はムリ



日本は、海の太平洋プレート、フィリピン海プレートと、陸の北米プレートとユーラシアプレートという4つのプレートがぶつかり合う世界で唯一の国です(右図)。地震の多くはプレートがぶつかる過程で発生します。左図は、2011〜20年の期間に発生した地震の震央分布です。日本全体に地震が集中的に発生しているのがわかります。日本以外では、原発はアメリカの東海岸やヨーロッパなど、固い岩盤の上に建てられています。

アメリカは、地震が頻発する西海岸には原発を建てていません。もともと日本に原発を建ててはいけなかったのです。

避難計画はふるさと喪失計画

福島原発事故は、避難が困難であることを示しました。もちろん、放射能で汚れた場所からは避難しなければなりません。避難計画も必要です。しかし、計画を作っても、実際の避難などできないことが今回の能登半島地震でわかりました。事故が起きれば、体育館のような避難場所でも何カ月かを過ごし、次は仮設住宅、災害復興住宅へと追い立てられます。住民は、避難しても故郷を失います。

頼れるのは県民の力

政府・自民党は、何としても柏崎刈羽原発を動かそうとしています。花角知事も避難ルートの整備を進めています。避難などできっこないんです。再稼働を止められるのは、新潟県民の力だけです。

※ わかりやすいお話でした。私たちの素朴な疑問にも丁寧に回答していただきました。元氣の出る講演会、主催者の皆さまもご苦労様でした。



小出裕章先生。2時間立ちっぱなしの渾身の訴え。



私の推し本その16

久米 宏 著 「久米宏です ニュースステーションはザ・ベストテンだった」(世界文化社)

この本は、久米さんの回顧録であると同時に私ら世代の同時代史、青春記にもなっている。お笑いクイズ番組の『ぴったしカン・カン』が始まったのが1975年(私11歳)、歌番組の『ザ・ベストテン』が1978年(私14歳)、そして、報道番組の『ニュースステーション』が1985年(私21歳)、久米さんは、私の世代と伴走した。本で久米さんがテレビの一つ一つのシーンを思い出す度、ああそうだ、あんなことこんなこともあったよなと思ひ起こすことができた(ベストテンでサザンが出てきたときのシーンは今でも鮮やかに覚えている)。

歌番組の司会者からニュース番組へのキャスターに。その新しく始めるニュース番組の企画にあたって、久米さんは「中学生でもわかるニュース」を心に誓った。

当時、女性と子どもはニュースをみないと言われていた。しかし、久米さんは、報道番組の『TVスクランブル』での体験を通して、子どもたちのニュースに対する優れた理解力、直感力を感じていたという。「ニュースを伝える人間が本気かどうか、本当のことを言っているかどうか、彼らにはごまかしが利かない。」それが20年続いたのだ。僕らは、真剣勝負のニュースを見て育ってきたことになる。感謝しかない。



柏崎刈羽原発の再稼働の是非を問う県民投票の実現を目指して県内の有志が9月7日に会合を開きました。県民投票条例を求める直接請求に必要な署名を獲得することを目指し、署名活動を開始することを決めました。

柏崎刈羽原発再稼働の是非を問う 県民投票へ始動

柏崎刈羽原発の再稼働の是非を問う県民投票の実現を目指して県内の有志が9月7日に会合を開きました。県民投票条例を求める直接請求に必要な署名を獲得することを目指し、署名活動を開始することを決めました。

退任を表明して「死に体」化したはずの岸田首相が先頭に立つての動きです。首相が求心力を失って実効性に疑問があるとも指摘されていますが、極めて危険な動きと考えざるを得ません。この動きが今後の新しい内閣にどう引き継がれていくのか、県はどのように受けとめるのか動向を注視する必要があります。

柏崎刈羽原発の再稼働を前提に
事故時の避難路を国負担へ

政府は9月6日、原子力関係閣僚会議を開き、柏崎刈羽原発の再稼働に向け、花角知事が要望していた避難道路などを国負担で整備する方針を決めました。ただし、事業規模やスケジュールなど具体的な内容は示されませんでした(新潟日報9月7日付)。

早ければ今秋の署名開始を目指します。

この署名による条例制定の直接請求は、県内では2012年以来12年ぶりとなります。

今後の動きは、①住民が、県議会でも審議してもらう県民投票条例案を作成する②その内容について、県内の有権者数の50分の1以上の県民から賛同署名をもらい、その署名簿を県に届け出る③県は署名が有効かどうかを確認する、④有効と判断された場合には、その条例案を県議会でも審議し採決する、という手続きになります。

県民から多数の署名を獲得することが一つ目のヤマ、そして、県議会でも過半数を獲得するのが二つ目のヤマになります。

知事や議会が県民投票に消極的な現状で、県民投票を実現させるためには、現在のところこの方法しかありません。

道のりは厳しいですが、この署名活動を通じて、直接県民に働きかけ、原発の再稼働の是非について意見交換ができますし、運動が広がれば、報道機関も注目し取り上げてくれるはずです。署名は、一般の署名と異なり厳格です。対面にて署名年月日、氏名、住所、生年月日を自署することになります。

詳細がわかりましたら追ってお知らせします。ぜひぜひご協力

力をお願いします。

「上越地域の医療を守る会」と共に 県に署名を提出してきました

前号(日誌35)でご報告しましたとおり、9月9日、「上越地域の医療を守る会」の皆さんとともに新潟県福祉保健部に向き、「防災病院の機能の存続を求める署名」14740筆を届けました。マスコミも多く来てくれて、夕方のテレビでも放映されました。9月15日には署名提出報告会が開催されます。



*前号で署名提出報告会の日時を間違えていました。1日ではなく15日です。訂正いたします。

馬場秀幸のつぎき 9月7日〜9月13日

●9月7日 上越文化会館中ホールで小出裕章氏講演会

●9月7日、柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会(ウェブ参加)

●9月9日 上越地域の医療を守る会とともに、新潟県福祉保健部で署名を渡す。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイアパレス高田式番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-babaihideyuki@wind.ocn.ne.jp